

庄原市地域公共交通会議 第3回ワーキング会議

令和7年9月8日(月) 15:00~17:00

15:00～15:30	● 開会挨拶、趣旨説明 ● これまでのワーキング会議における主な意見(公共交通の役割・望ましい公共交通の姿)の説明 ● 地域公共交通の課題解決の方向性(課題と、それを解決するための戦略(案))の説明 ● 意見交換
15:30～15:40	● 戦略を実行するための施策・事業(案)の説明 ● グループワークの進め方の説明
15:40～16:00 (20分程度)	【グループワーク】 テーマ① 戦略を実行するための施策・事業(案)について
16:00～16:15	【テーマ①の結果発表・神田先生からコメント】 ● 市民アンケート調査実施計画の説明 ● グループワークの進め方の説明
16:15～16:35 (20分程度)	【グループワーク】 テーマ② 戦略・施策に取り組むにあたっての課題・解決すべきことについて
16:35～16:55	【テーマ②の結果発表・神田先生からコメント】 ● 今後のスケジュールの説明 ● 閉会挨拶

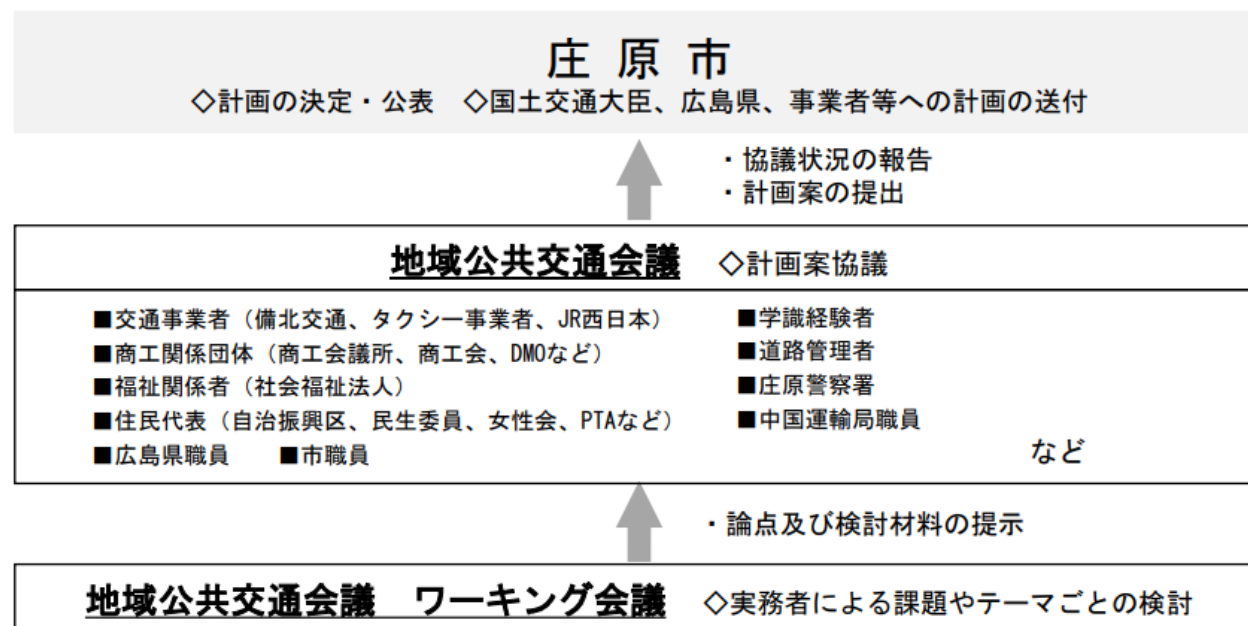
ワーキング会議の目的

これまでのワーキング会議の結果を踏まえた「望ましい公共交通」を実現するための戦略や施策（案）に対して意見を出し合うことで、それらを具体化し今年度策定を予定している「地域公共交通計画」に反映します。

地域公共交通計画とは

地域の実情に応じた持続可能な公共交通ネットワークを構築するための公共交通のマスタープラン

庄原市では令和2年3月5月に現計画である「**庄原市地域公共交通計画**」を策定しており**令和7年度は計画期間の最終年度**となります



▲ 地域公共交通計画の策定体制

公共交通の目指す姿
(基本的な方針)

これまでのワーキング会議の議論
における「公共交通の望ましい姿」
や、上位・関連計画等を踏まえ設定

戦 略

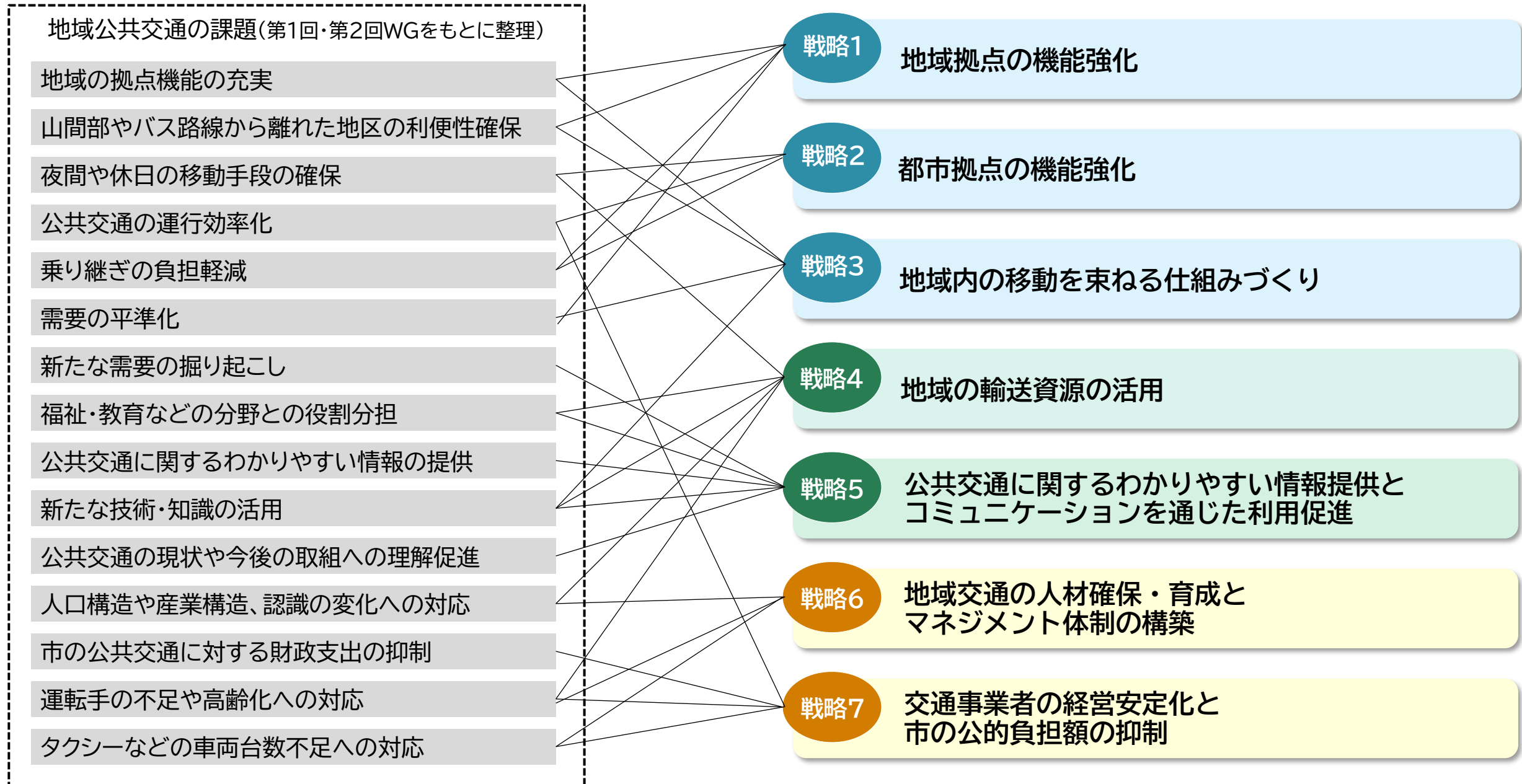
目指す姿を実現するための道筋
(地域公共交通の課題解決の方向性)

施策・事業

「戦略」を実行するための具体的な取組

本日のワーキング
会議で議論

テーブル	公共交通の役割 ※第1回ワーキングで意見のあった「公共交通の可能性・公共交通によって実現したいこと」を整理	望ましい公共交通の姿
庄原・総領	■ 医療機関への確実なアクセス ■ 中心部における回遊性向上 ■ お出かけのコーディネート ■ 様々な分野の人的リソースの共有 ■ 既存の交通資源の有効活用	● 各地域と市中心部との間を公共交通で確実に移動できる ● 夜間や休日にも公共交通で移動できる ● 乗り継ぎ拠点で便利に、快適に待つことができる ● 地域特性に応じた移動手段が提供されている ● 他分野も含めた連携・役割分担により効率的な運行が実現している ● 交通事業者が安定的に事業を継続することができる
東城・西城	■ 地域間の交流促進 ■ 地域の拠点に人を集める ■ 住民主体の助け合いによるコミュニティの互助機能 ■ JRと高速乗合バスの連携 ■ 観光まちづくりとの連携	● 公共交通を市民や来訪者が利用することで、市中心部や各地域の拠点が賑わっている ● 観光客など来訪者が二次交通として利用できる ● 世代を超えた交流を促進する ● 各地域の拠点(例:自治振興センター)に集まれば、目的地まで便利に移動できる ● 地域と連携した持続可能な運営の仕組みが成り立っている
高野・比和・口和	■ 「楽しい」と感じられる体験の創出 ■ 地域間を便利に、気兼ねなく移動できる ■ 自宅の前で乗り降りできる ■ 車両の小型化による運行効率化 ■ 最寄りのバス停までのアクセス確保	● 移動手段を複数の選択肢から選択できる ● 移動という「手段」と「楽しい体験」をセットにして、地域に来訪者を呼び込むことができる ● 路線・時刻・利用方法などのわかりやすい情報が容易に入手できる ● 公共交通によって送迎の負担が軽減される ● 自宅の近くで乗り降りできる ● 夜間や休日にも公共交通で移動できる



戦略1 地域拠点の機能強化

各地域の自治振興センター周辺等を交通の結節点として整備し、地域内移動の起点・終点機能、交通機関同士の接続を充実させる

市内幹線軸

…都市拠点と地域拠点、地域拠点間を結び、住民の日常的な移動需要に対応

戦略2 都市拠点の機能強化

市中心部の都市拠点において、各地域からの交通を集約し、広域連携の玄関口としての機能を強化する

広域幹線軸

…市外と都市拠点を結び、住民や来訪者の広域的な移動を担う

支線

…地区内の移動需要を満たし、幹線・支線へ接続し地区外の移動に対応

地域拠点

各地域

市中心部
(庄原)

都市拠点

戦略3

地域内の移動を束ねる仕組みづくり

個別の移動需要をコーディネートし、効率的な運行と利便性向上を両立する仕組みを構築する



▲ こまわりくん(総領地域)



▲ アプリ配車のデマンド交通
(庄原MaaS)

戦略4

地域の輸送資源の活用

IT技術やライドシェアの仕組み等も活用しつつ地域にある様々な輸送手段(スクールバス、福祉車両、住民の自家用車等)を使って、交通サービスを充実させる

ライドシェアの取組
(夜型デマンド交通「よるくる」)



戦略5

公共交通に関するわかりやすい情報提供とコミュニケーションを通じた利用促進

公共交通を使いやすくなるような、
情報提供の充実と地域コミュニケーションを通じた利用促進を図る

学生と対象とした利用促進
(備北交通)



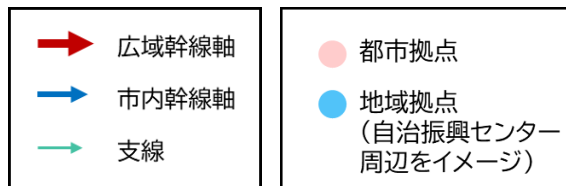
戦略7

交通事業者の経営安定化と市の公的負担額の抑制

公共交通の収益を向上
させ、交通事業者の経営
基盤強化と持続可能で
効率的な公共交通シス
テムを実現する



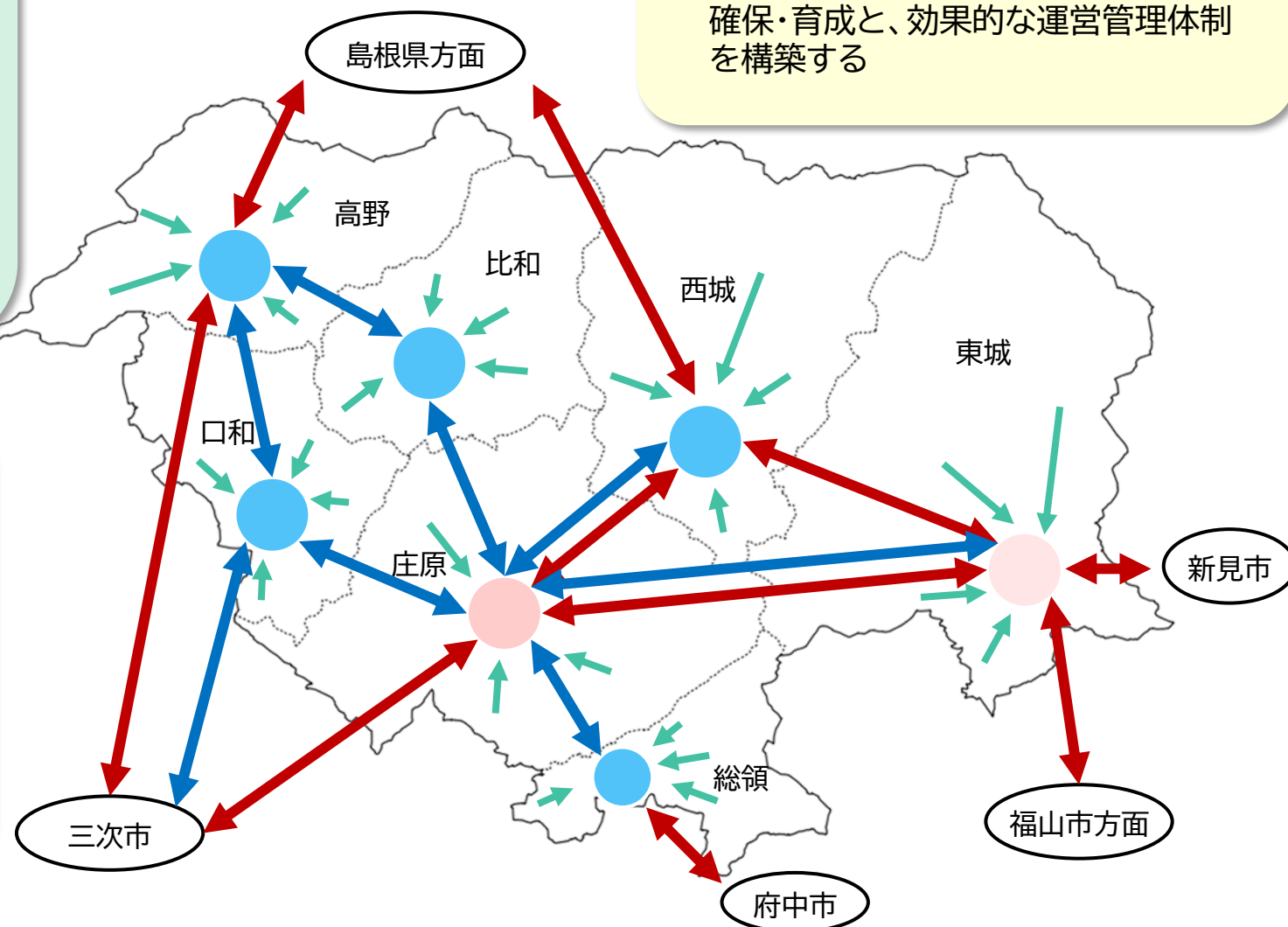
▲ 路線バス(備北交通)を活用した貨客混載



戦略6

地域交通の人材確保・育成とマネジメント体制の構築

持続可能な地域交通を支える人材の
確保・育成と、効果的な運営管理体制
を構築する



前回のワーキング会議で議論した公共交通の役割や望ましい公共交通の姿と、それを実現するための戦略（案）について、ご意見をお聞かせください。

（こういう視点が欠けている、目指す姿にこういう事柄を盛り込んだ方がよい、戦略としてこういう柱もあった方がよい…など）

【戦略1】地域拠点の機能強化

項目	施策・事業
【1】交通結節点における利用環境整備	① 鉄道駅の待合環境整備 ② 異なる交通モード間の乗り継ぎ時間短縮 ③ わかりやすい時刻表・運行情報の提供、乗り継ぎ案内の強化・改善 ④ バリアフリー化の推進 ⑤ 多言語対応、音声案内 ⑥ 観光・地域情報の提供機能 ⑦ 学習スペースの設置等、児童・生徒が安心して待てる(集まる)環境の整備
【2】自治振興センターの交通拠点化	① 各地域の自治振興センターを交通拠点として整備 ② 待合スペースにおける情報提供機能の充実 ③ 地域コミュニティ・催しとの連携 ④ 駐輪場の整備
【3】幹線・支線の連携強化	① 地域間を運行する公共交通の維持・確保 ② 幹線(庄原中心部・各地域拠点間)と支線(地域内)の役割分担明確化 ③ 接続ダイヤの最適化

【戦略2】都市拠点の機能強化

項目	施策・事業
【1】市中心部における回遊性向上	① 市街地における循環バスの運行見直し ② 主要施設(病院・商業施設・公共施設)への接続改善 ③ ニーズに合わせた運行頻度の見直し ④ ライドシェアの仕組みを活用した夜間や休日の移動手段確保
【2】市中心部へのアクセス性向上	① 各地域拠点から庄原中心部の地域間交通の維持・充実(朝夕通勤・通学時間帯の増便等) ② 買い物・通院時間帯に合わせた運行 ③ パークアンドライド駐車場の整備、自転車やシニアカーのレンタル事業等との連携 ④ 中心部周辺での乗降場所の充実
【3】移動需用の創出	① 商業施設・飲食店との連携割引 ② イベント時の臨時便運行 ③ 観光案内機能付き交通サービス ④ 歩行者・自転車との連携強化

【戦略3】地域内の移動を束ねる仕組みづくり

項目	施策・事業
【1】移動需要のコーディネート	① 目的地との連携やITの活用による需要が少ない時間帯の移動創出 ② 地域イベントと連携した移動企画 ③ 住民同士の相乗りマッチングの仕組み(ついで便・相乗りシステム)
【2】デマンド交通の活用	① IT活用による運行範囲・ルート等の最適化 ② 複数地域をまたぐ広域デマンド運行検討 ③ 時間帯別運行パターンの設定 ④ 利用実績に基づく運行エリア・時間の見直し

【戦略4】地域の輸送資源の活用

項目	施策・事業
【1】公共交通以外の輸送資源の活用	① スクールバスの空き時間活用 ② 施設等の車両共有(福祉、公共施設等) ③ 自家用車の活用 ④ 地域団体・企業の協力による輸送
【2】多様な交通モードによる地域内交通の構築	① 市民タクシーの拡大 ② バスからタクシーを活用した輸送への転換 ③ グリーンスローモビリティの活用 ④ 自動運転技術の導入検討

【戦略5】公共交通に関するわかりやすい情報提供とコミュニケーションを通じた利用促進

項目	施策・事業
【1】移動を通じた体験創出・交流促進	① 季節イベントと連携した特別便の運行 ② 地域の景色・文化を楽しむルート設定 ③ 車内での観光情報提供(地域紹介)、移動そのものを目的とした観光便の運行 ④ 地域の歴史・文化を伝える車内放送 ⑤ 地域行事・祭り・イベントとの連携 ⑥ 世代間交流を促す車内環境
【2】利用促進の推進	① 乗り方教室・体験乗車会の開 ② 児童・生徒向けを対象にした運賃割引の継続 ③ 地域住民による交通サービス紹介 ④ 学校教育との連携、公共交通に関する学習機会創出 ⑤ SNS・地域メディア・アプリ等を活用した情報発信

【戦略6】 地域交通の人材確保・育成とマネジメント体制の構築

項目	施策・事業
【1】 地域公共交通の担い手育成・確保	① バス・タクシー事業者のドライバー確保支援 ② 運転手の資格取得支援 ③ 事業者間での人材共有・連携
【2】 地域住民の参画	① ライドシェアの制度を活用した仕組み構築(住民ドライバーの登録制度等) ② 住民ドライバーの研修・安全管理体制の構築、保険や報酬等の制度整備
【3】 地域に適した運営体制構築	① 地域による運営協議会の設立 ② 地域企業・団体との連携した公共交通の運営 ③ 若年層の参画促進(学生ボランティア等)

【戦略7】 交通事業者の経営安定化と市の公的負担額の抑制

項目	施策・事業
【1】 事業継承・経営安定化に関わる支援	① 交通事業者への補助制度(資格取得に関わる支援等) ② 事業統合・再編による効率化支援
【2】 新たな収益モデルや 多様な運賃(料金)体系の導入	① 広告や貨客混載による収入確保 ② 観光・体験ツアーとの連携 ③ サブスクリプション制度の導入 ④ キャッシュレスカード「な・み・か」「ほ・ろ・か」の活用、決済できる路線の拡大 ⑤ 高齢者・学生割引制度の充実 ⑥ 広域交通(高速バス・鉄道)とセットにした乗車券の販売
【3】 公共交通の効率化	① デジタル技術活用したデマンド交通の乗り合わせの促進 ② 輸送形態の見直し(定時定路線からデマンド型への転換等) ③ 車両の最適化(小型化等)

テーマ

①

戦略を実行するための具体的な施策・事業(案)について

戦略を実行するための具体的な施策・事業（案）について、他に
取り組むべき事項、施策・事業を実施するにあたっての手法やアイ
デアなどについて、ご意見をお聞かせください。

調査の目的	■ 市民の移動実態や現在の公共交通サービスに対する意向を把握し、地域公共交通計画策定にかかる基礎資料とする ■ 本日を含むワーキング会議での意見交換を基に設定した、望ましい公共戦略や施策等の「仮説」を検証する
調査対象	市民3,000人（高校生以上を想定） ※人口の少ない旧町部からもサンプルを回収できるように、小地域ごとに配布数を設定
調査方法	郵送配付、郵送又はオンラインで回答
実施時期	9月下旬～10月上旬に発送
主な設問	・ 個人属性(居住地、性別、年代、世帯構成) ・ 運転免許証の保有状況、返納意向、自家用車の使用状況 ・ 普段の移動の目的地、頻度、行き・帰りの時刻・交通手段(通勤・通学、通院、買い物、その他の目的別) ・ 公共交通の利用頻度、利用する理由、利用しない理由 ・ 現在の公共交通サービスに対する評価 ・ 公共交通のサービス改善策とその利用意向(改善策の具体的な内容、利用頻度の変化) ・ 市中心部の交通結節点や、各地域の乗り継ぎ拠点拠点に必要な機能 ・ 公共交通サービスのあり方と市の財政負担についての考え ・ 自由意見

テーマ
②

戦略・施策に取り組むにあたっての課題・解決すべきことについて

【テーマ①】でご意見をいただいた施策・事業に取り組むにあたり、解決すべき課題についてご意見をお聞かせください。

また、今後実施する市民アンケート調査において、市民の皆さんに聞いてみたい事柄があればご意見をお聞かせください。

“【戦略1】地域拠点の機能強化”で挙げられている、「**地域間を運行する公共交通**」「**地域の拠点まで運行する地域内交通**」に対して、必要だと思うサービス水準(便数や運行時間帯など)について、ご意見をお聞かせください。

- 今回のワーキング会議での検討結果を踏まえた形で、市民アンケート調査を実施します。
- 次回の第4回ワーキング会議(11月を予定)では、市民アンケート調査結果の報告やこれまでの検討結果を踏まえた「地域公共交通計画」の素案について、意見交換を行うことを予定しています。